

短甲



写真1：鴨都波1号墳
棺外西副葬品出土状況

周囲の土ごと長さ1.5m、幅1mにも及ぶ範囲、つまり短甲の端から三面の鏡の端までをウレタンフォームにくるんで取り上げ、靴の裏面から詳細な調査を行うことにより、全容(図1)を知ることができました。

短甲(かんこう)の中に入れ込まれていました。状態の良い漆塗靴が出土しました。靴は矢を入れて背負うための道具です。出土状態も特徴的で(写真1)、胴部から下は二面の三角縁神鏡の上に置かれ、口の付近はうつぶせの状態で置かれた鉄製甲(方形板革綴)の中に含まれていました。

ふるさと御所 文化財探訪

其の二十一

古墳時代〈9〉
鴨都波1号墳
(5)

水浸しの主体部と
漆の美(その二)

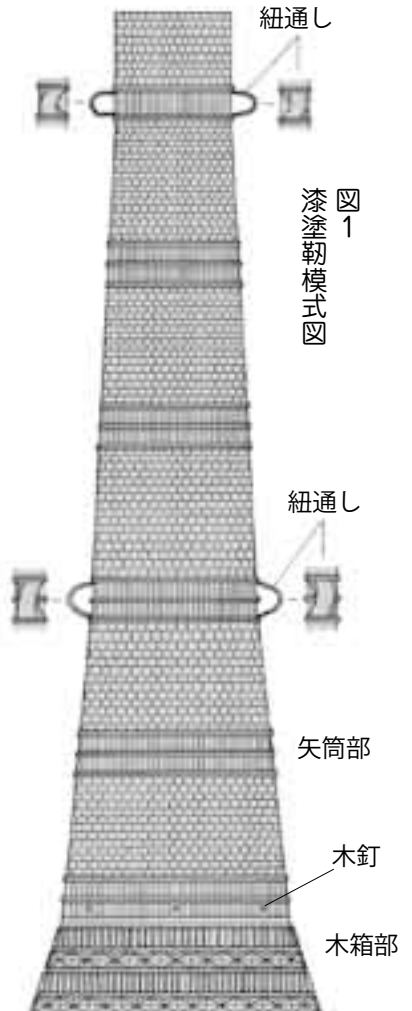
生涯学習課 文化財係
☎内線696

周囲の土ごと長さ1.5m、幅1mにも及ぶ範囲、つまり短甲の端から三面の鏡の端までをウレタンフォームにくるんで取り上げ、靴の裏面から詳細な調査を行うことにより、全容(図1)を知ることができました。

靴は矢筒部と底に用いる木箱からなり、木箱は菱形を組み合わせた彫刻と段彫りにしたベルト状の彫刻に全面が覆われ、別作りの矢筒部とは木釘で接合されます。矢筒部は革で全体を形作った後、その上に装飾のための市松文様を、1単位あたり、細い絹の撚り糸14本ないし16本で編み上げつつ、6段ある横帯部分では平織とし、その横帯部分にはさらにアクセントとして太い絹の撚り糸で界線と中間線の装飾を施しています。また、一番上と4段目の横帯の側面には、背負板と結びつけて固定するための紐通しが二対計4つ付いており、これは太い絹の撚り糸による平織で織られています。なお、



蓋

図1
漆塗靴模式図

紐通し

矢筒部

木釘

木箱部

この靴には本体を倒立させた形で作られた蓋も付属します。それらの全面に漆を重ね塗りすることにより仕上げられたこの漆塗靴は、1650年を経てもなお黒い光を失わぬ、実に優れた工芸品といえます。

ところで当時においては、漆といえはほかに刀剣や槍の装具、矢柄、革盾などにも塗布され、また、甲冑の場合には焼漆という技法で鉄板の表面に定着させて、漆黒を基調とした厳めしい武装を演出してきました。古墳時代前期においては甲冑は、各地域を代表する前方後円墳にのみ副葬されることを原則としています。大和においては、鴨都波1号墳のような中小規模の円墳や方墳にも前期の甲冑が出土する事実は、他地域に対する大和の経済的かつ軍事的な卓越性を示唆するものと評価できるでしょう。

(文責 藤田和尊)

5月15日～21日は 総合治水推進週間

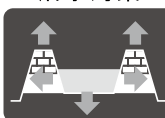
奈良盆地は水害が起きやすい地形。
だから総合治水対策が必要です。

総合治水対策とは、・・・

河道の整備などの
治水対策

降った雨を一時的に貯留する
流域対策

とともに



携帯サイトで
総合治水対策の
取り組みを
紹介しています。



「総合治水」に関する資料請求・問い合わせは…御所市土木課 ☎内線553
または、大和川流域総合治水対策協議会 (<http://www.yamato.kkr.mlit.go.jp/>)



写真2：漆塗靴底部付近
(裏面)